

イギリスの公共図書館における総量縮減を伴う再編計画に関する研究

李 燕
名古屋大学大学院工学研究科 講師

1. 研究背景

Page1

昨今、公共図書館における提供サービスと建築空間は大きく変化している。

提供サービス

- ・滞在型利用の増加
- ・課題解決の支援
- ・提供サービスの多様化（公共施設の連携）

建築空間

- ・滞在や交流、活動する空間整備
- ・他用途の複合化、集約化
- ・中心市街地の活性化を目的とした立地移転

>>ソフトとハードの両方の再編が必要

一方で、公共図書館を取り巻く**社会環境の課題**

- ・人口減少や税収減、行政の財政縮減
- ・施設の長期的な維持管理が困難
- ・公共図書館を含めた公共施設の総量抑制など

>>人口減少や財政難における公共図書館の**持続可能な再編計画**

1. 研究背景

Page2

日本では、図書館を始めとした**公共施設の複合化や集約化の再編**が進んでいる。なお、多くの自治体が「公共施設等総合管理計画」で**公共施設量の削減目標を定めているが、実際には管理計画とおりの再編実施が遅れており、総量削減の実事例が少ない。**

海外に目を向けると、イギリスでは、2010年以降の緊縮財政により、多くの公共図書館が閉館され、市民の図書館離れが問題となっている。近年は、その改善策として**図書館の複合化 (co-location)**を進め、公共図書館で多様な公共サービスを包括的に提供する再編事例が増加している。また、行政だけでなく、**公共団体や住民ボランティアの図書館運営を採用し、行政の施設運営を減らす再編事例も増加している。**

そこで、本研究では、**ロンドン・ブレント区 (London Borough of Brent、以下Brent区) の図書館再編を対象に、総量縮減を行った再編経緯と現状を分析し、縮減計画の結果と課題を明らかにすることで、日本における持続可能な公共施設の再編計画に有用な知見を得る。**

3. イギリスの公共図書館の再編動向

Page3

■イギリスの公共図書館の整備状況

- ・行政が直営する公共図書館の減少
- ・住民が運営するコミュニティ図書館の増加

- ・閉館した直営図書館の多くは
→ コミュニティ図書館として再開



図1 イギリスの行政直営図書館数とCoL 数の推移 (2013-2019年)¹⁾

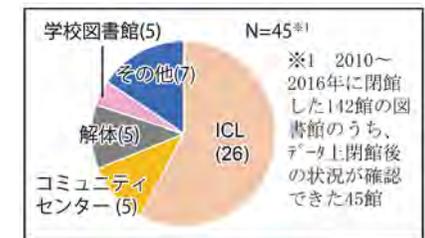


図2 閉館図書館のその後 (2010-2016年)²⁾

1) CIPFAstats, Public Library Statistics, 2010/11~2019/2020

2) Department for Digital, Culture, Media & Sport, Public Libraries in England: Basic Dataset, 2016

■イギリスのコミュニティ図書館の運営形式

表3 コミュニティ図書館の分類と運営

運営タイプ	独立型コミュニティ図書館 (ICL) Independent Community Library		連携型コミュニティ図書館 (CoL) Co-Produced Library		
	敷地と建物を所有 Asset owning	敷地と建物を非所有 Non-asset owning	コミュニティによる管理 Community Managed	コミュニティによる支援 Community Supported	コミュニティへの委託 Commissioned Community
自治体の職員や経費	なし	なし	あり。資料費や専門的 アドバイスなどの一部 のサービスに限る。	あり。自治体による 経費や職員の提供は 継続する。	あり。自治体による業務委託。
自治体図書館の管理システム	なし	なし	時々	含まれる	含まれる
自治体からの資産移転	あり	なし	時々	なし	なし
図書館条例による規定	なし	なし	一部のサービスに適用	適用	適用
公的資金の支給程度	なし	なし	低	中	高
図書館運営へのコミュニティの関与度	高 ← → 低				

■研究対象



ロンドン市におけるブレント区 (London Borough of Brent)の位置

2009年 行政改革を実施 (One Council Programme)

- ・行政組織の集約・縮減
- ・官民連携による公共サービスの提供

2011年 総量縮減の図書館再編を実施

Brent区の公共図書館の変遷

No.	名称	運営形態	建物・立地の変遷			
			2010	2015	2020	2022
1	Ealing Road (ERL)	直営	○	○		
2	Halestree (HL)	直営	○			
3	Kilburn (KL)	直営	○			
4	Kingsbury (KBL)	直営	○			
5	Wembley (WL)	直営	◇			
6	The Library at Willesden Green (WGL)	直営		□		
7	Preston Community Library (PCL)	ICL	×		□	□
8	Batham Community Library (BCL)	ICL	×		●	
9	Cricklewood Library (CKL)	ICL	×		□	
10	Kensal Rose Library (KRL)	ICL	×		●	
11	Tolkington (TL)	閉館	×			
12	Nusshin (NL)	閉館	×			

凡例: ×閉館 ◇移転改築 □改築 □改築中 ○既存改築 ●ICLの閉館

■各図書館の立地

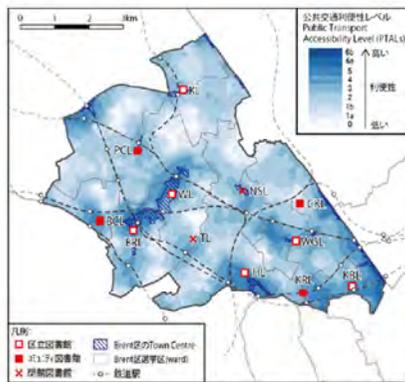


図5 Brent区の公共交通利便性レベル(PTALs)と図書館の立地

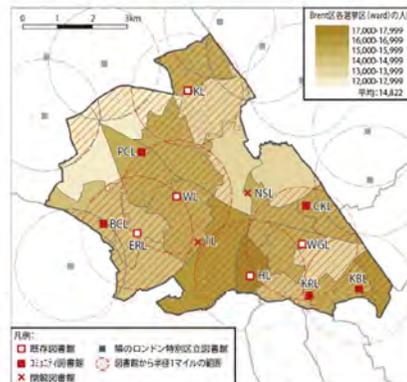


図6 Brent区各選挙区の人口と図書館の立地



IB Willesden Green Library Centre (中央館)

→
2015年に改築



The Library at Willesden Green (WGL)



IB Town Hall library (分館)

→
2013年に移転改築



Wembley library (WL)



■Wembley Library (WL)



写真① 区役所からみるWL入口 写真② WLの吹き抜け



写真③ WLのパサージュ 写真④ 地域包括相談窓口 (Brent Hub)

■The Library at Willesden Green (WGL)



WGLの博物館



WGLの閲覧室

■各CLの概要

No	図書館名	CLの開館日	運営体	スタッフ数	図書館開館時間(総時間)		建物所有	建物更新	延床面積		蔵書冊数(点)	
					2008年※1	2022年			2011年※1	2022年	2011年※1	2022年
1	Preston Community Library (PCL)	2015年	Friends of Preston Library	3人(常勤), 13人(シフト制)	53時間(週6日)	68時間(週2日)	Brent区から賃借 年間1ポンド(Peppercorn Rent)	既存敷地内に新しく建築(工事中)。現在は別場所の仮設建物で開館中	約250㎡	205㎡(計画)	約5,000	約5,000(計画)
2	Barham Community Library (BCL)	2016年	Friends of Barham Library	10人(シフト制)	33時間(週4日)	10時間(週3日)	Brent区から低賃金で賃借	既存の敷地内にある別建物と改修	約500㎡	約200㎡	約12,000	約6,000
3	Cricklewood Library (CKL)	2017年	Friends of Cricklewood Library	不明	33時間(週4日)	21時間(週4日)	民間不動産から賃借 年間1ポンド(Peppercorn Rent)	既存敷地内に新しく建築	不明	250㎡	不明	不明
4	Kensal Rise Library (KRL)	2019年	Friends of Kensal Rise Library	25人(シフト制)	29時間(週4日)	11時間(週4日)	民間不動産から賃借 年間1ポンド(Peppercorn Rent)	既存建物を改修	175㎡	175㎡	不明	約5,300

※1 2011年(閉館年)の延床面積と蔵書冊数はBrent区立図書館から確認できなかったため、各CLへのヒアリング調査から確認した概数を記入
 ※2 Brent Council: Library Strategy 2008-2012²⁾を参照



写真1: Preston Community Library (改築中)



写真2: Barham Community Library (既存改修)



写真3: Cricklewood Library (改築)



写真4: Kensal Rise Library (既存改修)

■CLの開館意図と立地

- ・図書サービスよりも、地域活動の場の提供
- ・移民や高齢者、子育て世代に社会活動に参加する機会を提供
- ・歴史継承のために既存場所で開館、近隣住民が主な利用者



表6 各CLの開館意図と空間整備

図書館	開館意図	立地および空間整備
PCL	<ul style="list-style-type: none"> ・本をめぐって人々が出会い、交流する場を存続させるためにCLを開館した。 ・図書館は人々が知的交流を行いながら、助け合い、支援を構築する重要な場所である。 ・近くに小学校が多く、図書館は小学生の放課後の滞在場所であり、学校と家で体験できない学習を提供できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存敷地が再開発されたが、住民の主張により、図書館がACVに登録され、新しく整備された。取得できた床面積ははるかに、各部のレイアウトや設備などについて要望できた。 ・これまでの図書館利用者に場所が認識されやすいように、既存敷地で開館した。
BCL	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なのは図書館の図書ではなく、図書館の空間である。 ・図書館が閉館すると、住民は社会交流に参加する機会を失ってしまう。特に子育て世代や高齢者は、外出できる場所を失い、孤立される恐れがある。 ・本を借りるだけではなく、人と関わるための場を確保するために、CLとして開館した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園と建物は地元の企業家が公共図書館の開設のために寄付したものであり、この場所では図書館を再建させることに意図がある。 ・既存建物を利用したかったが、市から敷地の別建物が提供された。 ・建物内部を改築し、大人数の活動に開催できるように壁に書架を配置した。
CKL	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が出会い、交流できる場所を提供し続けるために、図書館を再開した。 ・多様な年齢層が暮らし、子どもたちの読書や大人の英語学習など、地域学習を支援するために図書館が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地は民間不動産に売却され、再開発が行われた。ACVに登録されたので、図書館も新しく整備された。 ・新しい図書館では、みんなが入りやすいようにカフェを設置した。
KRL	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ人作家Mark Twainが設立し、大学から寄付された図書館であり、この歴史を継承したい。 ・読書や生涯学習の支援、地域の健康支援に関するサービスを提供することを目標としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は建物全体が図書館だったが、現在は1階のみ図書館であり、上階はマンションに開発された。 ・住民の寄付金により内部を改築し、閲覧室とPCコーナー、多目的室を整備した。

■各CLの空間構成



図13 各CLの平面図（図面が入手できなかったBCLを除く）と内観写真

■区立図書館とコミュニティ図書館がの比較

プレント区立図書館

- ・駅や中心市街地など便利な場所に立地
- ・総量削減を伴う図書館の複合化・多機能化
- ・提供サービスの多様化・専門化

プレント区コミュニティ図書館

- ・公園や住宅地における立地
- ・図書サービスよりも場所の提供
- ・近隣住民の活動拠点

■総量削減の課題

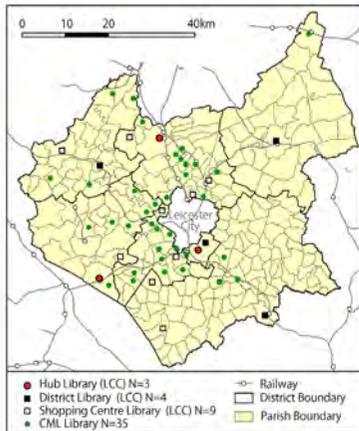
プレント区立図書館

- ・住民の合意形成の困難
- ・多目的利用は増加するが、図書の利用の低下

プレント区コミュニティ図書館

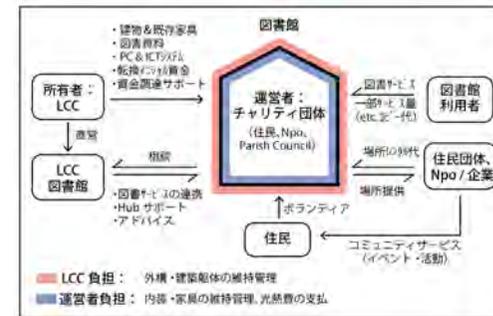
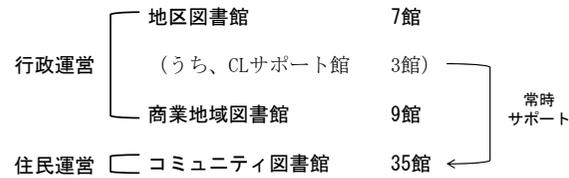
- ・運営資金の確保が困難
- ・ボランティア育成の困難

■公民連携の図書館再編事例 (Leicestershire County Council, LCC)



LCCの図書館の立地

LCCの図書館分類



コミュニティ図書館の運営形態

運営移管のサポート資金

資金の種類	金額 (£)	サポート内容
イニシャル資金	1,000	各種準備活動やボランティア募集、広報に関する費用
セットアップ資金	2,000	チャリティ登録、法的続き、オープンに向けたイベント開催に関する費用
軽微な改修資金	5,000	軽微な内装や設備改修に関する費用
計	8,000	

- ・初期サポート
 - ・資金サポート
 - ・ボランティア募集、育成
 - ・図書館サービスの講習
- ・長期サポート
 - ・資金調達の支援
 - ・法的手続のサポート
 - ・建物維持管理の協力

以上、ご清聴ありがとうございます。